

新潟市の国際交流

NIIGATA CITY'S INTERNATIONAL EXCHANGE PROFILE

2026



目次

はじめに	2
新潟市総合計画2030における施策の位置付け	2

国際交流の推進

第1章 北東アジア地域との交流

日本海拠点としての新潟(航路・航空路)	3
対岸各地との交流	4
・ロシアとの交流	4
・中国との交流	4
・朝鮮半島との交流	5
交流を担う組織・機関	5
・総領事館・名誉領事館	5
・新潟市北京事務所	5

第2章 姉妹・友好都市をはじめとする世界との交流

都市間交流の様々なかたち	6
・アメリカ ガルベストーン市(姉妹都市)	7
・ロシア ハバロフスク市・ウラジオストク市・ビロビジャン市(姉妹都市)	9
・中国 ハルビン(哈爾濱)市(友好都市)	13
・フランス ナント市(姉妹都市)	15
・韓国 ウルサン(蔚山)市(交流協定都市)	17
様々な分野での国際的な取り組み	19
・経済分野における取り組み	19
・観光分野における取り組み	19
・国際会議・大会等の誘致	19
・環境分野における取り組み	20
・文化を通しての交流	20
・スポーツを通しての交流	20
・青少年交流	20

多文化共生のまちづくり

第3章 誰もが住みやすいまちづくり

・多文化共生のまちづくりをめざして	21
・「災害時における在住外国人支援」の取り組み	21
・誰にでもわかりやすく伝えるために－「やさしい日本語」	22
・公益財団法人 新潟市国際交流協会	23
・新潟国際友好会館	24
・国際交流員	25
・市民が主役の国際交流	26



はじめに

古くからみなとまちとして発展してきた新潟市は、日米修好通商条約により開港五港の1つとなって以降、日本海沿岸地域をはじめ世界各地の都市と結びつきを深めてきました。

本市は現在、世界の7都市との間で姉妹・友好都市、交流協定都市提携を行っており、また、市内に3か国の総領事館が設置されていることや、国際港湾・国際空港が立地する優位性や拠点性を活かして、世界各地の都市との交流を推進しています。

令和8(2026)年6月にJCIが主催する^{ジェイシーアイ}ASPAC(国際青年会議所アジア・太平洋地域会議)新潟大会、11月には国内初の世界湿地都市ネットワーク市長会議といった国際会議が開催され、このような大規模な国際会議は、新潟の魅力国内外へ発信する絶好の機会となります。こうした機会を最大限活かしながら、官民一体となって国際都市としての基盤を充実させるとともに、さらなる交流人口の拡大を図りたいと考えています。

また、本市では、国籍や文化の違いを尊重し合い、一人ひとりが心豊かに暮らすことができるまちづくりを進めており、令和7(2025)年に「新潟市多文化共生基本方針」を策定しました。

本冊子が、本市における今後の国際交流や多文化共生社会の実現に向けて、市民の皆さまと共に考える上で、その一助となれば幸いです。

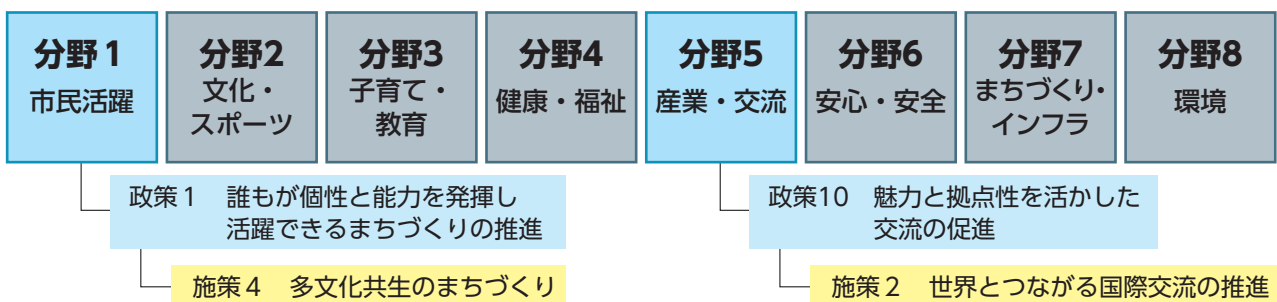
令和8(2026)年3月
新潟市長 中原 八一

新潟市総合計画2030における施策の位置付け

「新潟市総合計画2030」の基本構想・基本計画は、令和5(2023)年度から令和12(2030)年度までの8年間における新潟市の目指す都市像を示す計画です。

本冊子に記載の事業は、新潟市総合計画2030基本計画の政策・施策の体系において、「分野1 市民活躍」の「多文化共生のまちづくり」と、「分野5 産業・交流」の「世界とつながる国際交流の推進」に位置付けられます。

新潟市総合計画2030基本計画における政策・施策の体系



新潟市はロシア極東、中国東北地方、朝鮮半島などの対岸地域と歴史的に密接な関わりを持ってきました。国際拠点港や国際空港、新幹線や高速道路などの交通網を擁し、韓国・ロシア・中国の3総領事館が開設されている本市は、北東アジアをはじめ様々な国・都市と日本を結ぶ交流拠点となっています。

日本海拠点としての新潟(航路・航空路)



令和8(2026)年3月現在

〈開設年表〉

港湾	
1869年	新潟港開港
1988年	東南アジアコンテナ航路開設 釜山コンテナ航路開設
1995年	中国コンテナ航路開設
1999年	北東アジアコンテナ航路開設
2012年	中国・釜山航路開設
2019年	新潟開港150周年

空港	
1973年	ハバロフスク線開設
1979年	ソウル線開設
1993年	ウラジオストク線開設
1998年	上海経由西安線開設(現在上海線のみ)
	ハルビン線開設
	グアム線開設
2013年	台北線開設
2019年	香港線開設

対岸各地との交流

ロシアとの交流

新潟市は1960年代前半、日本海を挟んで向かい合う対岸諸国との交流の拠点となることを目指し、当時この地域で唯一国交が回復されていたソ連に目を向けました。昭和40(1965)年、ソ連極東の中心都市ハバロフスクと姉妹都市提携を行いました。その後、ウラジオストク、ビロビジャンとも姉妹都市となりました。また、平成6(1994)年には市内に新潟ロシア連邦総領事館が開設されました。

昭和48(1973)年にハバロフスク、平成5(1993)年にはウラジオストクと新潟を結ぶ定期航空路が開設され、日本とロシア極東をつなぐ数少ない直行便として長く利用されてきました。平成23(2011)年以降は運休となりましたが、平成25(2013)年より令和元(2019)年まで夏季チャーター便が運航されました。

半世紀以上にわたる本市とロシア極東との交流は、文化やスポーツ、青少年、環境、経済など様々な分野で行われました。



▲昭和48(1973)年
新潟-ハバロフスク定期航空路開設

日ロ沿岸市長会

昭和45(1970)年、日本の日本海沿岸地域とロシア極東シベリア地域の友好親善と経済協力を促進し、両地域の発展を図るため、日ソ沿岸市長会が設立されました(平成4(1992)年、ソ連邦解体に伴い、会の名称を日ロ沿岸市長会に変更)。設立当初より新潟市長が代表幹事を務め、新潟市に事務局を置いています。

ロシア側カウンターパートであるロ日極東シベリア友好協会(会長・ハバロフスク市長)とともに半世紀以上にわたって日ロ沿岸市長会議を隔年で開催し、日ロ両地域の経済協力や観光交流などについて協議、会議での合意に基づき両国政府や関係機関への要望書の提出なども行いました。

■日ロ沿岸市長会 会員市(10市)(令和8(2026)年3月時点)
秋田市 新潟市 上越市 佐渡市 富山市 高岡市
射水市 金沢市 敦賀市 舞鶴市

■ロ日極東シベリア友好協会 会員市(20市)
ビロビジャン市 プラゴヴェシチェンスク市
ブラーツク市 ワニノ市 ウラジオストク市
ドリンスク市 ジェレズノゴルスク・イリムスキー市
イルクーツク市 ナホトカ市 ネヴェリスク市
ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市 ポロナイスク市
ウラン・ウデ市 ハバロフスク市 ホルムスク市
シェレホフ市 ユジノ・サハリンスク市 ヤクーツク市
コムソモリスク・ナ・アムーレ市 マガダン市

中国との交流

昭和53(1978)年、亀田郷土地改良区の佐野藤三郎理事長は、中日友好協会から黒龍江省三江平原開拓の協力要請を受け、同地の開拓、基盤整備を支援することになりました。この支援活動は、昭和54(1979)年の新潟市とハルビン市との友好都市提携に発展しました。翌年、交流に関する覚書に調印して以降、両市は教育・医療・観光・経済・水道技術などの様々な分野で交流を続けています。

また、ハルビン市以外にも、中国の様々な都市と交流しています。新潟市歴史博物館は、陝西省西安市にある西安博物院と平成19(2007)年に友好博物館(院)の提携を行いました。

山東省青島市とは市議会や観光分野で交流しており、平成27(2015)年に両市が「東アジア文化都市」の日中の代表都市に選出されたことをきっかけに、新たに文化交流が始まりました。

山東省済南市とは平成20(2008)年に「友好交流に関する覚書」に調印し、青少年・文化交流を進めています。

平成22(2010)年には市内に中華人民共和国駐新潟総領事館が開設されました。平成27(2015)年からは、総領事館や新潟県等とともに、中国の旧正月「春節」を祝うイベント「新潟春節祭」を開催しています。中国の文化団を招聘してステージ公演を実施するなど、伝統芸術を楽しむイベントとして親しまれています。



▲令和7(2025)年10月
新潟市青少年使節団がハルビン市を訪問交流

朝鮮半島との交流

第2次世界大戦後の新潟と朝鮮半島との交流は、昭和34(1959)年に新潟港が日本に残留した在日朝鮮人の帰還事業の出発港となることによって始まりました。当時の新潟市は人道的観点から事業を支援し、多くの市民が帰還者を見送りました。

ボトナム(朝鮮語で「柳」の意)通りの柳の木、白山公園の梅の木など、市内には帰還者が新潟市民に贈った記念物が今も残っており、当時の歴史を伝えています。

新潟港とウォンサン(元山)港との間には貨客船が往来するなど、新潟は交流の窓口となってきましたが、平成18(2006)年より船舶の出入りは途絶えています。

大韓民国との交流は、1970年代後半の駐新潟大韓民国総領事館と新潟-ソウル定期航空路線の開設を機に、民間の経済交流を中心に発展してきました。

平成2(1990)年には新潟県の主導で「新潟県ソウル事務所」が開設され、経済だけでなく、文化、教育、スポーツなど、交流の分野が広がりました。

平成14(2002)年のサッカーワールドカップ日韓共催大会で新潟市は開催地の一つに選ばれ、このことがきっかけでウルサン市との交流が始まりました。

平成27(2015)年からは、「東アジア文化都市」のつながりで忠清北道のチョンジュ(清州)市とも交流しています。

平成28(2016)年からは、韓国の中秋(旧暦のお盆)を祝い、文化芸能公演等を楽しみながら日韓の友好親善を図るイベント「韓日ハンガウィ祭り」(総領事館主催)が市内で開催されています。



▲令和7(2025)年9月
韓日ハンガウィ祭り2025

交流を担う組織・機関

総領事館・名誉領事館

総領事館の主な任務としては、自国民の保護、両国間の友好関係の促進、査証(ビザ)・証明書の発給などがあげられます。

名誉領事館は、両国のネットワーク形成等が主な任務ですが、査証の発給など総領事館に準じた役割を担う場合もあります。

こうした機関が新潟市に設置されていることにより、文化や経済面等での交流促進が図られています。

総領事館

大韓民国総領事館	昭和53(1978)年開設
ロシア連邦総領事館	平成6(1994)年開設
中華人民共和国総領事館	平成22(2010)年開設

名誉領事館

フランス名誉領事館	平成5(1993)年開設
モンゴル国名誉領事館	平成19(2007)年開設

(過去に所在していた領事館)

英国領事館	明治2(1869)年~10(1877)年
	明治11(1878)年~12(1879)年
ドイツ領事館	明治2(1869)年~15(1882)年
オランダ領事館	明治2(1869)年~3(1870)年
米国領事館	明治3(1870)年

新潟市北京事務所

新潟市と中国との結びつきをさらに深めるため、首都・北京市においては日本の地方自治体として初となる単独事務所を平成19(2007)年に開設しました。中国における新潟の情報の発信や、経済・観光交流の推進のため、以下のような活動を行っています。

- (1)新潟市のPR、広報活動
- (2)中国との経済交流推進支援(企業支援、観光客誘致など)
- (3)中国の経済・産業情報の収集
- (4)各種交流事業における連絡・調整



▲事務所入口サイン



▲中国国内の観光展において本市をPR



▲新潟市北京事務所
ホームページ

都市間交流の様々なかたち

(1) 姉妹・友好都市

文化交流や親善を目的として国際的に結びつきをもつ都市のことです。

一般財団法人自治体国際化協会では、次に挙げる要件のすべてに該当するものを、「姉妹(友好)自治体」として取り扱うこととしています。

1. 両首長による提携書があること
2. 交流分野が特定のものに限られていないこと
3. 交流するに当たって、何らかの予算措置が必要になるものと考えられることから、議会の承認を得ていること

姉妹(友好)自治体交流は、自治体が行う国際交流施策の中核として重要な手法です。

新潟市は、ガルベストン市(アメリカ)、ハバロフスク市(ロシア)、ハルビン市(中国)、ウラジオストク市(ロシア)、ビロビジャン市(ロシア)、ナント市(フランス)の6つの姉妹・友好都市を持ち、交流を進めています。

(2) 交流協定都市

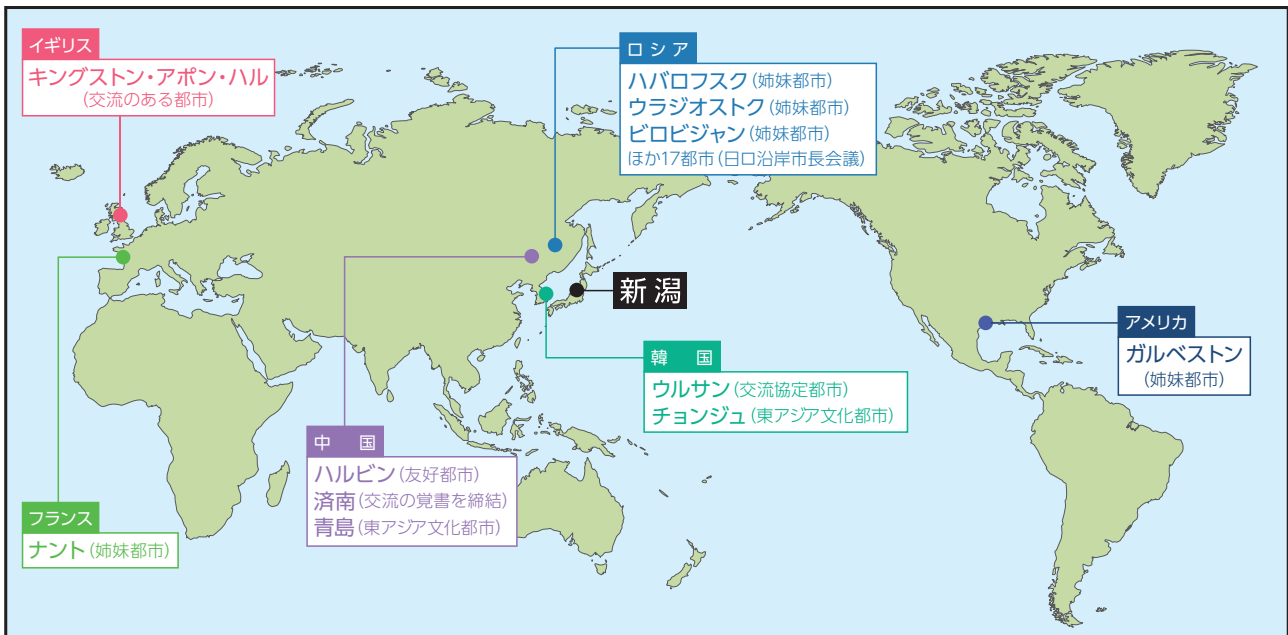
「姉妹・友好都市提携」のほか、相手都市との間で今後さらに交流を発展させたいという考えが一致した場合、その都市と「交流協定」を締結することがあります。

「交流協定」の内容は、相手都市との合意により交流分野を挙げるなど様々な形があります。

新潟市は、ウルサン市(韓国)と交流協定を結んでいます。

(3) その他の都市交流

「姉妹・友好都市」「交流協定都市」のほか、世界各地、各都市との交流を進めています。



「姉妹都市?それとも友好都市?」

日本では「姉妹都市」という呼び方が一般的に使用されていますが、これは元々アメリカで「Sister City」と呼ばれたことから、それを直訳した「姉妹都市」という呼び方が今日まで多く採用されてきたものと思われます。

中国の都市との提携の場合は、「姉妹」を用いると、どちらが姉か妹かという上下の関係となるため、「友好都市」という呼称が用いられています。



ガルベストン市 (姉妹都市)



【地理】

- アメリカ合衆国テキサス州南東部沿岸のガルベストン島にある港湾都市です。
- ガルベストン島と本土との間は約3キロの橋で結ばれており、ヒューストンから車で1時間ほどの距離にあります。

【基本情報】

- 面積 539.6km²
- 人口 53,641人 (2021年)
- 市の花 夾竹桃 (キョウチクトウ)

【市章】



市内の海港博物館に係留されている歴史的に有名な商業帆船エリッサ号と市制が施行された年を表しています。

【気候】

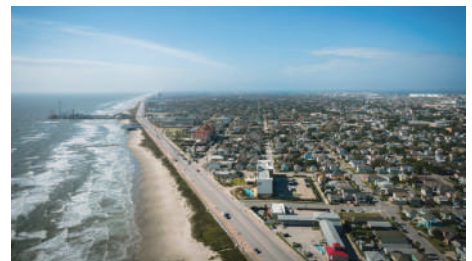
亜熱帯性気候のため、一番寒い1月でも平均気温は14℃と温暖です。最も暑くなるのは7月ですが、平均気温は28℃程度です。

平均気温：1月14℃ / 7月28℃

年間降水量：1,113.54mm

こんなまち

19世紀にテキサス州内最大の港湾都市として栄えたまちです。市内にはビショップパレスなど、当時の繁栄を物語る国家歴史登録財に指定された建物が点在しています。1900年、2008年にはアメリカの歴史に残るハリケーンにより大きな被害を受けましたが、その後、土地の高上げや海沿いへの防潮壁の建設などを進め、美しいビーチと歴史的景観を併せ持つ観光都市として発展しました。また、港で水揚げされる海老が有名で、毎年9月に開催されるシュリンプ・フェスティバルには多くの人が訪れます。



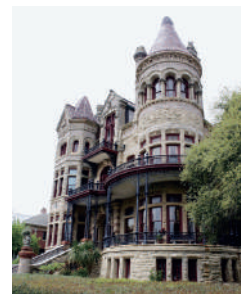
▲ガルベストンのまちなみ

【歴史】

- 市名のガルベストンは、1777年にこの地を占領したスペイン総督、ベルナルド・デ・ガルベス伯爵の名前に由来しています。
- 1839年、ガルベストン市が創立されると、港湾貿易の発展を背景に商業・金融の中心地として繁栄し、「南部のウォール街」と呼ばれました。

【リゾートのまちガルベストン】

- 年間を通して温暖な気候に恵まれたガルベストンは、テキサス州を代表するリゾート都市として高い人気を誇っています。コンベンションやクルーズ船の誘致と併せて観光都市としての発展を目指しており、2022年には810万人の観光客が訪れました。
- ガルベストン港は2025年に開港200周年を迎え、クルーズ船受入設備の強化として第4のクルーズターミナルが新たに開業するなど、観光・クルーズ拠点としての機能を一段と充実させています。



▲ビクトリア調建築
「ビショップパレス」



▲ガルベストン港クルーズ船ターミナル

新潟市との交流

市民の要望を受けて、アメリカ合衆国の都市との姉妹都市提携のための調査を進めていたところ、昭和39(1964)年、当時新潟市にあった新潟アメリカ文化センターの館長セオフィラス・アッシュフォード氏がテキサス州出身であった縁などから、新潟と同じ港湾都市のガルベストーン市を提携先として薦められ、翌年の提携に至りました。

以降、ガルベストーン市とは、さまざまな分野において交流を進めてきました。提携60周年を迎えた令和7(2025)年4月には、ガルベストーン市から代表団が来訪し、市民交流団体「新潟・ガルベストーン委員会」とのお茶会や着物の着付け体験などを通じて、市民同士の交流を行いました。また、同年11月にはガルベストーン市において日本酒の試飲イベントを開催し、約220人の市民に日本酒の魅力を紹介しました。

【提携年月日】

昭和40(1965)年
1月28日

ガルベストーン市において共同声明を
発表した日



▲令和7(2025)年4月
新潟市でお茶会・着物の着付け体験



▲令和7(2025)年11月
ガルベストーン市での新潟市PR事業



▲令和7(2025)年11月
ガルベストーン市で日本酒試飲イベントを開催

【交流略年表】

- 1964. 3 両市で議会が姉妹都市提携を承認決議
- 6 新潟地震に際しガルベストーン市から慰問特使が来訪
- 11 ガルベストーン市へ牡丹の苗木とチューリップの球根を寄贈
- 1965. 1 姉妹都市提携。ガルベストーン市にて両市長共同声明発表
- 5 ガルベストーン市が新潟市へ爽竹桃の苗木を寄贈
- 1981.12 新潟・ガルベストーン委員会発足
- 1983. 9 ハリケーン災害復興のために新潟市で募金活動を実施。義援金送付
- 1985. 8 第1回新潟市民友好の翼がガルベストーン市を訪問
- 1989. 8 新潟市制100周年記念「国際芸能祭」にガルベストーン市文化団が参加
- 9 新市庁舎竣工を記念しガルベストーン市がカウボーイ像などを新潟市へ寄贈
- 1994.10 万代シテイに「ガルベストーン通り」誕生
- 1995. 1 提携30周年記念モニュメント建立
- 2 新潟市長を団長とする友好の翼がガルベストーン市の祭り「マルディグラ」に参加
- 1997.10 環日本海駅伝にガルベストーン市長をはじめとするガルベストーンチームが参加
- 2005. 8 新潟市で提携40周年記念祝賀会開催
- 2006. 4 新潟市長がガルベストーン市を訪問
- 2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にガルベストーン市から市民団体(ガルベストーン・新潟委員会)会長が参加
- 2009. 4 新潟・ガルベストーン委員会がガルベストーン市を訪問。2008年9月のハリケーンアイクによる被害に対する義援金を贈呈
- 2010.11 新潟市教育委員会の青少年使節団16名がガルベストーン市を訪問
- 2013. 6 ガルベストーン市民6名が西蒲区で「鯛車教室」に参加
- 11 ガルベストーン市で第1回「鯛車教室」を開催
- 2015. 6 新潟市で提携50周年記念祝賀会開催
- 11 新潟市議会議長団、友好の翼、鯛車復活プロジェクトがガルベストーン市を訪問
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にガルベストーン代表団が参加
- 11 友好の翼がガルベストーン市を訪問
- 2018.11 新潟市立万代高校とボール高校がビデオ交流
- 2019. 1 ガルベストーン市の市民団体が市議会の諮問組織に改組され、ガルベストーン姉妹都市プログラム委員会が発足
- 8 ガルベストーン市で第7回「鯛車教室」を開催
- 2020. 1 新潟市で提携55周年記念祝賀会開催
ガルベストーン市代表団2名が参加
- 2022.11 ガルベストーン姉妹都市プログラム委員会とオンライン会議を実施(以降複数回実施)
- 2023.11 ガルベストーン市で第8回「鯛車教室」を開催。同時期に開催された「インターナショナル・フェスティバル」で新潟市を紹介
- 2024.11 新潟市事務団、鯛車復活プロジェクトがガルベストーン市を訪問。ガルベストーン鉄道博物館で新潟市写真パネル展開催。第9回「鯛車教室」を開催
- 2025. 1 新津鉄道資料館でガルベストーン市写真パネル展開催
- 4 新潟市で提携60周年記念祝賀会開催
ガルベストーン市代表団7名が参加
- 11 新潟市代表団、友好の翼、鯛車復活プロジェクトがガルベストーン市を訪問。ガルベストーン市で新潟市PR、日本酒試飲イベント、第10回「鯛車教室」を開催



ハバロフスク市 (姉妹都市)



【地理】

ハバロフスク市は、アムール川中流域東岸に位置するハバロフスク地方の州都です。

【基本情報】

- 面積 386km²
- 人口 611,292人(2021年)

【市章】



ハバロフスク地方に住むツキノワグマとトラが盾を抱えています。盾は、ハバロフスクがアムール川とウスリー川の合流地点に位置し、豊かな自然に恵まれていることを表しています。

【気候】

夏は気温、湿度ともに高く、一方、冬は気温が低く雪の少ない気候です。

平均気温：1月−19.8℃／7月21.3℃
年間降水量：684mm

こんなまち

シベリア鉄道や河川交通、航空路が交わるロシア極東地域の重要な拠点都市です。市内には世界有数の大河アムール川が流れ、雄大な水辺の景観が広がります。冬には広大なアムール川の水面が氷結し、氷上で穴釣りを楽しむ人々の光景は冬の風物詩となっています。また、アムール川で獲れる鮭は名物で、市内のレストランでも味わうことができます。川沿いには美しく整備された公園や船着き場が連なり、四季を通じて市民が散策を楽しむ憩いの場となっています。街の中心部には聖堂、教会、劇場、博物館、美術館、アイスアリーナなどの文化・スポーツ施設が充実しています。

【歴史】

ハバロフスクという名は、17世紀のロシアの探検家エロフェイ・ハバロフにちなんで付けられたものです。鉄道駅の前にはハバロフの記念像が建てられています。



▲アムール川沿いに広がるハバロフスク市



▲ウスペンスキー聖堂

新潟市との交流

昭和37(1962)年に新潟市長がハバロフスク市を訪問して両市の交流促進について協議し、昭和38(1963)年に駐日ソ連大使が新潟市を訪問して以来、両市の間で児童画や版画などの交換が始まりました。その後、行政や各界の指導者が相互に訪問。昭和39(1964)年の新潟地震の際には、震災直後に救援木材が寄贈され、両市の関係が深まりました。

【提携年月日】

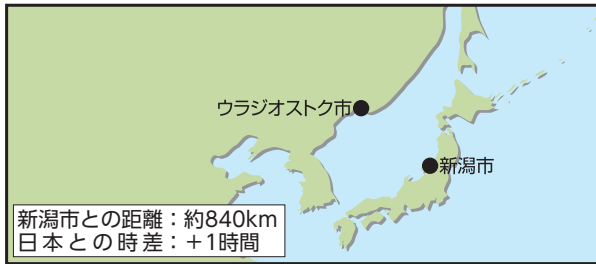
昭和40(1965)年4月23日
新潟市において姉妹都市提携の宣言に調印した日



※写真は新潟日报社提供



ウラジオストク市 (姉妹都市)



【地理】

ウラジオストク市は沿海地方の州都で、ロシア極東最大の港湾都市です。ムラヴィヨフ・アムールスキー半島の南端に位置しています。

【基本情報】

- 面積 561km²
- 人口 629,200人(2021年)

【市章】



盾の中の虎は、沿海地方の豊かな自然を象徴しています。

【気候】

暖かい春、雨の多い夏、乾燥した秋、風が強く雪の少ない冬と、季節ごとの特徴がはっきりしています。

平均気温：1月-12.3℃／7月19.8℃
年間降水量：840mm

こんなまち

ムラヴィヨフ・アムールスキー半島の南端、金角湾沿岸に広がるロシア極東有数の港湾都市です。2012年のAPEC首脳会議の開催を契機として大規模なインフラ整備が進み、黄金橋の建設やルースキー島の開発などにより「アジア太平洋への窓口」として存在感を高めています。また、世界最長のシベリア鉄道の出発点として、モスクワまでの9,288キロメートルを結ぶ旅の起点となっています。市中心部付近のスポーツ海岸通りには水族館や遊園地などのレジャー施設が集まっており、潮風を感じながら散歩する市民や観光客で賑わっています。

【歴史】

1860年に軍港として建設され、1880年に市制が施行されました。明治時代には多くの日本人が居住し、日本国領事館も置かれていました。太平洋艦隊の重要な拠点であったため、長い間対外的に閉鎖されていましたが、1992年に開放され、1993年から日本国総領事館が再開されました。



▲金角湾にかかる黄金橋



▲市民が憩うスポーツ海岸通り

新潟市との交流

- 昭和62(1987)年、ウラジオストク市で開催された沿岸貿易見本市に新潟市が参加して以来、港湾都市同士として両市間の往来が始まりました。
- 平成元(1989)年には新潟港から戦後初の観光船がウラジオストク港に向けて出港しました。その後、使節団の交換などの交流を経て、ウラジオストク市の公式開放を待たずに姉妹都市の提携を行いました。

【提携年月日】

平成3(1991)年2月28日
新潟市において姉妹都市提携の宣言に調印した日





ビロビジャン市 (姉妹都市)



【地理】

ビロビジャン市は、アムール川を隔ててハバロフスク地方に隣接するユダヤ自治州の州都です。

【基本情報】

- 面積 169km²
- 人口 70,433人(2021年)

【市章】



水色の盾に描かれる銀色の柱は、ユダヤ教の古いシンボルであるメノーラー(燭台)を象徴しています。下部の半円部分の波状の線は市内を流れるビラ川を、緑の半円と銀色の突起物は、ビラ川のほとりの丘とその上にあるテレビ塔を表しています。

【気候】

典型的な大陸性気候で、冬季の気温は-20℃以下になることもあります。

平均気温：1月-25℃／7月25℃
年間降水量：640mm

こんなまち

ユダヤ自治区の州都として、ユダヤ民族の歴史的文化遺産があるまちです。ユダヤ人コミュニティセンター「フレイド」やシナゴーク(ユダヤ教会)ではユダヤ文化や歴史的な資料が展示されています。市内の標識にはロシア語と、ヨーロッパ系ユダヤ人の間で主に使用されてきたイディッシュ語が併記されています。また、杉原千叡の「命のビザ」により、ユダヤ人が欧州から日本へ避難する際に、シベリア鉄道でビロビジャンを通過したことから、2017年、ビロビジャン駅には、ロシア語、英語、日本語、イディッシュ語で記された杉原千叡記念プレートが設置されました。

【歴史】

19世紀末、シベリア鉄道の建設開始に伴い、多くの建設労働者がロシア極東に入植し、ビロビジャンは鉄道駅を起点として発展しました。この鉄道駅は1912年に開設され、1928年にこの地域がユダヤ人入植地に指定されると、ユダヤ人の移住が進みました。1934年のユダヤ自治州設立に伴い、ビロビジャン市はその州都となり、1937年には市制が施行されました。市名は、周辺を流れるビラ川とビジャン川にちなんで名付けられました。



▲ビロビジャン鉄道駅



▲ビロビジャン駅に設置されている杉原千叡記念プレート

新潟市との交流

平成17(2005)年3月、新潟市と豊栄市が合併したことにより、平成4(1992)年8月に提携したビロビジャン市と豊栄市の姉妹都市関係を新潟市が引き継ぎました。

【提携年月日】

平成17(2005)年3月21日
新潟市と豊栄市が合併し、豊栄市とビロビジャン市の姉妹都市関係を引き継いだ日



【交流略年表】

—ハバロフスク市—

1962. 7 市長が文化使節団团长として訪ソ。ハバロフスク市訪問の際、交流促進について協議
1964. 7 新潟地震の見舞いにハバロフスク・ウラジオストク両市から建築用木材3,000m³が届けられる
1965. 4 姉妹都市提携。両市長が新潟市で宣言に調印。ソ連極東物産展開催
1973. 6 新潟—ハバロフスク定期航空路開設
- 1981.12 「新潟・ハバロフスク友好市民委員会」発足
1989. 8 市制100周年記念「国際芸能祭」にハバロフスク市から民族芸能使節団が参加
- 9 新潟市役所新庁舎竣工を記念し、ハバロフスク市が熊のはく製と天然石のモザイク画を寄贈
1990. 8 「マリニピア日本海」オープンにハバロフスク市がチョウザメを寄贈
1996. 9 新潟市からハバロフスク市へ道路舗装用機械を寄贈
2001. 7 「新潟・ハバロフスク・ハルビン三都市環境会議」をハバロフスク市で開催（以降、2019年まで3市持ち回りで毎年開催）
2005. 7 提携40周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団、「友好の翼」を相互派遣。双方の市で写真展を開催
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にハバロフスク市から副市長らが参加
2008. 5 ハバロフスク市開基150周年記念事業に新潟市から代表団、文化団が参加
2010. 4 提携45周年を記念してハバロフスク市代表団及び同市民からなる「友好の翼」が来訪
2013. 5 ハバロフスク市開基155周年記念事業に新潟市代表団が参加
- 11 アムール川の洪水被害を受けたハバロフスク市の復興のため新潟市で募金活動を実施し、義援金を寄付
2014. 8 提携50周年イベントとして新潟市から代表団、文化団を派遣
2015. 7 提携50周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団、「友好の翼」を相互派遣
2016. 5 ハバロフスク市開基158周年記念事業に新潟市文化団が参加
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にハバロフスク市から代表団、文化団が参加
2018. 5 ハバロフスク市開基160周年記念事業に新潟市代表団、文化団が参加
- 2020.10 姉妹都市提携55周年記念事業として、ハバロフスク市紹介展示などを開催
- 11 新潟市長とハバロフスク市長がオンライン会談を実施
2021. 5 ハバロフスク市開基163周年にあたり、新潟市長より祝賀ビデオメッセージを送付

—ウラジオストク市—

1964. 7 新潟地震の見舞いにウラジオストク・ハバロフスク両市から建築用木材3,000m³を贈られる
1987. 5 ウラジオストク市の沿岸貿易見本市に新潟市から参加
1989. 5 新潟港からウラジオストク港へ初の観光船就航
- 1990.10 ウラジオストク市在住の少年がやけどの治療のため新潟市民病院に入院
1991. 2 姉妹都市提携。両市長が新潟市で宣言に調印
- 7 ウラジオストク市で「新潟ウィーク」開催
- 9 新潟市職員をウラジオストク市に日本語教師として10ヵ月間派遣（以後2004年まで継続）
- 10 新潟空港から初の直行チャーター便就航
1992. 1 ウラジオストク市が対外的に開放される
- 4 「新潟・ハバロフスク友好市民委員会」が「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク友好市民委員会」と改称
- 5 新潟市で「ウラジオストクウィーク」開催
- 7 ウラジオストク市開放記念式典に新潟市長参加。新潟市からウラジオストク市の水族館へ錦鯉を寄贈
- 7 ウラジオストク市が「マリニピア日本海」にカワカマスなどを寄贈
1993. 4 新潟—ウラジオストク定期航空路開設
1998. 7 新潟港開港130周年記念事業としてウラジオストクへの日本海クルーズを実施
1999. 3 ウラジオストク空港国際ターミナル開設記念式典に新潟市から代表団が参加
2001. 7 提携10周年記念事業を実施
2006. 1 ウラジオストクから「友好のクルーズ」受入
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にウラジオストク市から副市長らが参加
2008. 9 新潟港開港140周年記念事業として企画展「浦潮とよばれた街」を新潟市美術館で開催
2010. 7 ウラジオストク市開基150周年記念事業に新潟市から代表団、文化団が参加
2011. 7 提携20周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団を相互派遣。観光関係者を派遣市から代表団、文化団が参加
2014. 8 ウラジオストク市代表団が新潟まつりに合わせ来訪
2015. 7 ウラジオストク開基155周年記念事業・姉妹都市会議に新潟市から参加
2016. 7 提携25周年記念事業として生け花ワークショップをウラジオストク市で実施
- 11 提携25周年記念事業としてスポーツ団を受入
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にウラジオストク市から代表団、文化団が参加
- 2019.11 「第5回ジャパンフェスティバルinウラジオスク」に新潟市文化団が参加
2021. 4 新潟市長とウラジオストク市長がオンライン会談を実施
- 7 提携30周年記念事業としてウラジオストクフェアなどを実施

—ビロビジャン市—

1992. 8 豊栄市とビロビジャン市が姉妹都市提携
- 両市長がビロビジャン市で宣言に調印
- その後代表団の交換、児童絵画の交流が実施され、また日本語学習に関する参考図書を豊栄市から贈呈
2005. 3 新潟市と豊栄市が合併
- 新潟市が豊栄市とビロビジャン市の姉妹都市関係を引き継ぐ
- 8 新潟市長を团长とする代表団がビロビジャン市を訪問
- 両市長が新潟市で宣言に調印
- 11 新潟で開催された「食と花の世界フォーラム」にビロビジャン市から参加
2006. 8 新潟市文化団がビロビジャン市で踊りの公演
- ビロビジャン市スポーツ団（テニス）が来訪。親善試合を実施
- 9 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク、ウラジオストクを訪問
- 11 「新潟国際ビジネスメッセ」にビロビジャンから参加（以降2011年まで毎年参加）
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にビロビジャン市長一行が参加
- 「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク友好市民委員会」が「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク・ビロビジャン友好市民委員会」と改称
- 7 ビロビジャン、ウラジオストク、ハバロフスク市青少年使節団が来訪
- 9 ビロビジャン市市制70周年記念事業に新潟市から代表団が参加
2008. 8 新潟市スポーツ団（テニス）がビロビジャン市を訪問。親善試合を実施
2010. 5 新潟市文化団がビロビジャン市を訪問
- 7 旧豊栄市とビロビジャン市の姉妹関係を本市が引き継いで5周年を迎えることを記念し、北区文化会館竣工に合わせてビロビジャン市文化団が公演
2012. 9 ビロビジャン市市制75周年記念事業に新潟市から代表団と文化団が参加
2013. 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が来訪
- 11 アムール川の洪水被害を受けたビロビジャン市の復興のために新潟市で募金活動を実施し、義援金を寄付
2014. 8 新潟市代表団がビロビジャン市を訪問
- 9 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2016. 3 ビロビジャン市代表団、経済関係者が来訪
- 7 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にビロビジャン市から代表団が来訪
- 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が参加
- 9 ビロビジャン市市制80周年記念事業に新潟市から代表団と文化団が参加
2018. 7 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2019. 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が来訪



ハルビン(哈爾濱)市 (友好都市)



【地理】

- 中国東北部に位置し、黒龍江省の省都です。
- 北京から飛行機で2時間、高速鉄道で5時間ほどの距離にあります。



【基本情報】

- 面積 5.31万km²
- 人口 933.0万人(2024年)
- 市の花 ライラック
- 市のシンボル 人民防洪勝利記念塔

【気候】

湿潤大陸性気候に属し、真冬の最低気温は-30℃になることもあり、厳しい寒さから「氷の都」とも呼ばれています。

平均気温：1月-18℃／7月23℃
年間降水量：551.3mm

こんなまち

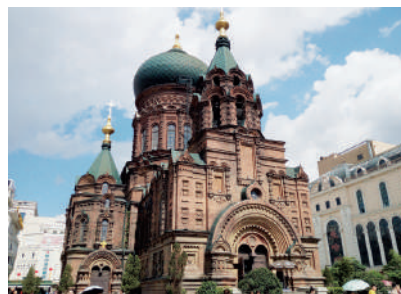
市中心部にはロシアや西洋風の建築・街並みが保存されており、「東方のモスクワ」「東洋の小パリ」等とも呼ばれてきました。氷と雪をテーマにした「ハルビン国際冰雪節」は国内外から多くの観光客が訪れます。1996年と2025年には冬季アジア大会、2009年には冬季ユニバーシアード大会が開催されました。トウモロコシやコメ、大豆等の穀物の栽培が盛んに行われ、ハルビン市に属する五常市等の地域で作られた米は中国では高級ブランド米となっています。ハルビンビールは中国で最初に生産されたビールで、毎年夏にハルビン国際ビール祭りが開催されます。市内に多くの湿地があり、2018年に「ラムサール条約」湿地都市に認定されました。

【歴史】

- 12～13世紀に中国北部を支配した女真族(後の満州族)が興した「金王朝」の最初の都・上京会寧府は、現在のハルビン市阿城区に置かれました。また、同じ満州族の「清王朝」は東北地方に根拠地を置き17世紀に中国を統一しました。こうしたことから、ハルビンは清王朝発祥の地とされています。
- 19世紀末、シベリア鉄道の支線である東清鉄道の建設拠点として、急速な都市化が進みました。最盛期には、世界33か国約16万人の外国人が居住し、19か国の領事館が設置されるなど、早くから国際都市として発展していました。

【冰雪と音楽のまちハルビン】

- 「ハルビン国際冰雪節」は、近年、文化・スポーツ・観光・経済貿易・科学技術など多くの分野を融合した冰雪の祭典に発展し、中国十大冰雪観光都市ランキングで、連続して首位を獲得しています。
- 中国国内初の交響楽団と音楽学校が誕生したまちであり、毎年夏に開催される音楽祭は中国三大音楽祭の一つに数えられています。



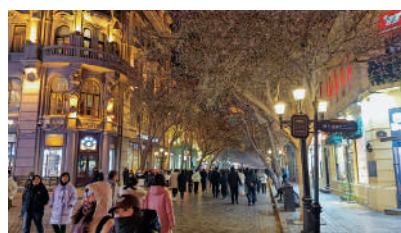
▲1907年に建築された「聖ソフィア教会」
(現在の建築芸術博物館)



▲ハルビン国際冰雪節



▲音楽公園の巨大雪だるま



▲ロシア風の建築物が並ぶ中央大街

新潟市との交流

昭和53(1978)年から亀田郷土地改良区が黒龍江省三江平原の土地改良事業調査に協力するなど、日中友好に寄せる市民の関心が高まり、提携が実現しました。以降、教育や医療等の様々な分野で交流を進めています。令和6(2024)年度は、ハルビン市の青少年使節団が新潟市内の小学校を訪問・交流し、また、ハルビン市第一医院代表団が新潟市民病院を視察しました。令和7(2025)年度は、新潟市青少年使節団がハルビン市内の小学校で文化体験・交流を、新潟市民病院代表団がハルビン市第一医院を視察、学術講演を行うなど、相互交流を行っています。

【提携年月日】

昭和54(1979)年
12月17日

新潟市において議
定書に調印した日



▲令和元(2019)年10月
提携40周年記念ハルビン交響楽団公演



▲令和7(2025)年10月
ハルビン市第一医院で開催された学術講演会



▲令和7(2025)年10月
新潟市青少年使節団による新潟市紹介

【交流略年表】

- 1979.12 友好都市提携
- 1981.12 「新潟・ハルビン友好市民の会」が設立される
- 1982. 7 新潟市民病院によるハルビン市第一医院医学研修生受け入れが始まる
- 1985. 7 新潟市水道技術交流代表団が訪中(水道技術交流が始まる)
- 9 武術太極拳代表団が新潟市太極拳協会の招きで来訪(太極拳交流が始まる)
- 1989. 9 提携10周年記念事業として「ハルビン・新潟友誼園」開園(新潟市が技術・資金協力)
- 1993. 8 新潟市青少年使節団が訪中(青少年交流が始まる)
- 1994. 8 提携15周年記念事業としてハルビン物産展・写真展・投資セミナーを新潟市で開催
- 1995. 3 ハルビン市環境視察団が来訪(環境分野での交流が始まる)
- 1998. 6 新潟ーハルビン定期航空路開設
- 1999. 7 提携20周年記念訪問団訪中
- 11 提携20周年記念友好交流団が来訪
- 2001. 7 「新潟・ハルビン・ハバロフスク三都市環境会議」をハバロフスク市で開催(以降、2019年まで3市持ち回りで開催)
- 2002. 4 ハルビン市から苗木などの提供を受け、新潟市に「ライラック通り」を建設
- 2004. 6 提携25周年記念友好交流団が来訪
- 2005. 7 ハルビン市で新潟市投資環境説明会を初めて開催
- 2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にハルビン市代表団が参加
- 2009. 9 提携30周年記念事業として「ハルビン金代文化展」開催
- 9 ハルビン市太極拳代表団が来訪し、国体のデモンストレーション演武に参加
- 11 提携30周年記念事業として「友好の翼」市民訪問団訪中
- 2012. 6 松花江湿地観光フェスティバルに新潟市代表団が参加
- 2015. 2 提携35周年記念事業としてハルビン交響楽団が新潟市で公演
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にハルビン市代表団が参加
- 2019. 9 提携40周年記念事業として「ハルビン・新潟友誼園」技術交流団を派遣、園内の修繕を行う
- 2019.10 提携40周年記念代表団が来訪し、ハルビン交響楽団公演、ハルビン投資・観光説明会を開催
- 2020. 1 提携40周年を記念し、市長がハルビン市を訪問。新たに交流の「覚書」に調印
- 1 新潟市がハルビン市へマスク3万枚を寄贈する
- 4 ハルビン市より新潟市へマスク3万6000枚が寄贈される
- 2020. 8 新潟市長とハルビン市長がオンライン会談を実施
- 2024.10 コロナ後、対面交流を再開。ハルビン市青少年使節団が来訪
- 11 ハルビン市第一医院代表団が来訪
- 2025.10 新潟市民病院代表団、新潟市青少年交流使節団訪中



ナント市 (姉妹都市)



【基本情報】

- 面積 65.2km²
- 人口 325,070人(2022年)

【市章】



上部はブルターニュ公爵の城、下部は18世紀に盛んだった海洋貿易で大西洋に乗り出した船を表しています。ネプチューンはナントの守り神とされており、思い切りの良い者にチャンスを与えるという意味があると言われています。

【地理】

- フランス北西部に位置するロワール・アトラティック県の県庁所在地です。
- パリからはTGV(高速鉄道)で約2時間です。



【気候】

西岸海洋性気候に属し、年間を通して湿潤です。夏は比較的涼しく、冬は暖流と偏西風の影響で、高緯度でも比較的穏やかで雪はほとんど降りません。

平均気温：1月6.0℃／7月19.6℃

年間降水量：820mm

こんなまち

フランス最長のロワール川下流に位置する、水と緑に囲まれた美しいまちです。18世紀にはフランス最大の港を有し水上交易や造船業で栄え、産業の衰退後は文化芸術を基盤に街が再生されました。近年は緑化にも力を入れており、都市と自然が調和した住みやすい街として高い評価を受けています。フランスの国民的ビスケットブランド「LU(リュ)」の発祥の地であり、バター風味豊かな焼き菓子類や白ワイン「ミュスカデ」でも知られています。

【歴史】

10～15世紀にかけてブルターニュ公国の首都として栄え、中心部には、ブルターニュ公爵城をはじめとする歴史的建造物が今でも残っています。有名な「ナントの勅令」は、1598年に国王アンリ4世が国内の宗教対立を終結させるため、この場所で発令しました。

【現代アートのまちナント】

- 新潟市で開催されたこともあるクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」の発祥地で、ユニークな現代アート作品を展示する「ヴォワヤージュ・ア・ナント」や三大陸映画祭など、多彩な文化イベントが年間を通して開催されています。「海底二万里」を著したSF作家ジュール・ヴェルヌの出身地でもあります。
- 木や鉄でできた機械仕掛けの動物達「レ・マシン・ド・リル」といった市独自のアート作品があります。全長21mにも及ぶ巨大な象はナント市のシンボルとして親しまれ、地元の子どもたちや観光客を楽しませています。



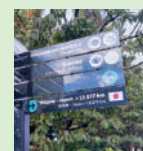
▲ブルターニュ公爵城

ヴェルサイユ島日本庭園

エルドル川の中州に作られた日本庭園。市街地に近く、市民の憩いの場として、また日本関連のイベント会場としても利用されています。



©Ville de Nantes



◀ 敷地内には、新潟市との姉妹都市提携10周年を記念して植樹された友好の木と、新潟市までの距離を表した看板も設置されています。



▲ナント島の機械仕掛けの象

©David Gallard



▲まちなかに設置された巨大アート

©Martin Argyroglo

新潟市との交流

平成3(1991)年、「新潟・フランス協会」が設立され、同じころナント市で設立された「アトランティック・ジャポン」協会との間で交流が始められました。両協会の活動を中心とする市民交流の高まりを受け、平成21(2009)年に姉妹都市になりました。以降ナント市とは様々な分野で継続した交流を行っています。提携15周年を迎えた令和6(2024)年には、ナント市で食文化イベント「新潟の食堂」を開催し、約500人のナント市民に新潟の食の魅力を届けました。令和7(2025)年には、ナント市のダンスユニット「The Rookies」がいにがた総おどりに参加し、市内の青少年と踊りを通じた交流を行いました。

【提携年月日】

平成21(2009)年
1月31日

ナント市において
宣言書に調印した日



▲令和5(2023)年10月
市長とナントのよさこい団体「踊り鶴」



▲令和6(2024)年9月
ナント市で「新潟の食堂」を開催



▲令和7(2025)年9月
「The Rookies」がいにがた総おどり参加

【交流略年表】

- 1991. 1 「新潟・フランス協会」設立
- 1996. 9 ナント市で「新潟フェア」開催
- 1998.11 新潟市で「ナントフェア」開催
- 1999. 6 ナント市で交流協定調印
- 2006. 5 新潟市で「日仏都市会議2006」開催
- 2007. 4 新潟市民代表団(新潟・フランス協会)ナント市訪問。「ジャポンフェア」に参加、日本の伝統・文化を紹介
- 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にナント市代表団が参加
- 7 ナント市で開催された「日仏都市・文化対話」に参加
- 2008.10 「第1回日仏自治体交流会議」(ナンシー市)に両市が参加
- 2009. 1 ナント市において姉妹都市提携
Noismがナント市でワークショップを実施
- 2 新潟市で「日仏都市・文化対話」開催
- 5 第10回ナント国際フロラリーに出展
- 10 ナント市長一行が来訪、姉妹都市提携覚書に調印、記念写真展、記念植樹を実施
- 2010. 4 ラ・フォル・ジュルネ新潟「熱狂の日」音楽祭開催。以降、2017年まで毎年開催
- 2010.10 ナント市主催「日本フェア」に新潟市文化団が参加
- 2012. 4 新潟市長がフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章受勲
- 2013. 9 新潟市代表団が「エコシティ世界サミット」(ナント市)に参加
- 2015.10 新潟市で「日仏中韓都市・文化対話2015」開催
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にナント市代表団が参加
- 2018.10 「ジャポニスム2018」関連事業として、パリ市とナント市でおにぎりワークショップ等を開催
- 10 「第6回日仏自治体交流会議」(熊本市)に参加
- 2019. 5 提携10周年記念事業に新潟市代表団・文化団を派遣
- 第12回ナント国際フロラリーに出展
- 10 提携10周年記念事業にナント市代表団が来訪
新潟市で「ナントフェア」、ナント市の画家による水彩画展を開催
- 2020.10 新潟市長とナント市副市長がオンライン会談開催
- 11 両市教育機関などによるオンライン交流(以降複数回実施)
- 2022. 7 ナント市主催「都市とメンタルヘルス国際会議」に新潟市民のインタビューを提供
- 2022.10 「第7回日仏自治体交流会議」(エクサンプロヴァンス市)に両市が参加
- 2023. 4 ナント市代表団が新潟市を訪問
- 2023.10 新潟市代表団がナント市を訪問。スポーツに関する姉妹都市会議に参加し、ラグビーワールドカップパブリックビューイング会場にて新潟市PR
- 2024. 9 提携15周年記念事業として、ナント市で「新潟の食堂」と「ナント・新潟茶会」を開催
- 2024.11 「第8回日仏自治体交流会議」(静岡市)に両市が参加
- 提携15周年記念祝賀会を新潟市で開催
- 2025. 9 ナント市ダンスユニット「The Rookies」がいにがた総おどりに参加し、市内青少年と交流



ウルサン(蔚山)市 (交流協定都市)



新潟市との距離：910km
日本との時差：なし



【地理】

- 韓国南東部の港湾都市。南にプサン(釜山)市、北に古都キョンジュ(慶州)市が隣接しています。
- ソウルから高速鉄道(KTX)で2時間余り、キンポ(金浦)空港から空路で約1時間です。



【基本情報】

- 面積 1062.8km²
- 人口 1,121,987人(2025年)
- 市の花 バラ
- 市の木 竹

【市章】



龍が如意珠(願いを叶える力がある珠)を口にくわえ、力強く飛翔する姿を表しています。自然と人間、産業と文化が調和する都市を目指して挑戦し、困難を乗り越えようという強い意志を象徴しています。

【気候】

市を代表する河川テファガン(太和江)が都市を南北に隔てており、一年を通して比較的温暖な気候です。

平均気温：1月2℃／8月26.5℃
年間降水量：1,558mm

こんなまち

韓国の「産業首都」と呼ばれる最大の工業都市です。世界規模の自動車メーカー「ヒョンデ(現代)自動車」を筆頭に、造船所、石油コンビナートなど重化学工業の企業が集まっています。一時公害問題が深刻になりましたが、市民と行政の協働でテファガン(太和江)の水質改善を実現しました。農畜産物として、梨やブランド牛「オニャン(彦陽)の韓牛」が有名です。風光明媚な海岸、標高1000メートル級の山々が連なるヨンナム(嶺南)アルプスがあり、自然豊かな都市です。



▲ヒョンデ自動車の輸出埠頭

【歴史】

- 李氏朝鮮時代の記録「朝鮮太宗実録」によると、1413年にウルサンの地名が初めて登場しました。同時代の一時期、倭館(商人・外交官の居留地)が設置され、日本と交易が行われました。1592～98年の文禄・慶長の役では日本との戦いの舞台になった歴史があります。
- 1900年代初めは、捕鯨基地としても繁栄しました。1962年、政府から特定工業地区に指定され、市に昇格し、1997年に広域市に昇格しました。



▲初日の出の名所カンジョルゴ(長絶岬)

【世界遺産登録で注目・成長を続けるウルサン】

近年は、自然と調和した都市景観づくり、環境に配慮した水素エネルギーのインフラ整備やAIデータセンターの誘致などを進めています。2025年7月には、先史時代の岩面彫刻「バングチョンの岩刻画」が、ユネスコ世界遺産に登録され、注目を集めました。2028年には、テファガン国家庭園で「ウルサン国際庭園博覧会」の開催を控えています。



▲2025年世界遺産に登録されたバングチョン岩刻画



▲市民に親しまれているテファガン国家庭園

新潟市との交流

両市が平成14(2002)年のサッカーワールドカップ日韓共催大会の開催都市に選ばれたことから、平成12(2000)年より少年サッカー交流が始まりました。ワールドカップ期間中には文化団が両市を相互訪問するなどして交流促進の機運が高まり、平成18(2006)年9月、交流協定を締結しました。

以降、ウルサン市とは、青少年交流や文化団の公演、友好市民団体の相互訪問など幅広い分野で交流を積み重ねています。

令和5(2023)年よりウルサン市の文化団が本市で開催される「韓日ハンガウィ祭り」に出演しており、伝統舞踊やダンスパフォーマンスを披露するなど文化を通じた交流が行われています。

【提携年月日】

平成18(2006)年
9月21日

新潟市において交流
協定書に調印した日



▲令和7(2025)年8月
ウルサン市友好市民の会「新潟を愛する会」来訪



▲令和7(2025)年9月
韓日ハンガウィ祭りに出演した蔚山芸総芸術団



▲令和7(2025)年9月
新潟・ウルサン交流サポーターズプログラム

【交流略年表】

- 2000. 8 ウルサン市の少年サッカーチームが来訪
「日韓親善少年サッカー大会」を開催し、ホームステイなどで交流
- 2002. 6 サッカーワールドカップ期間中、両市の文化団が相互に訪問し、公演を披露
- 2005.11 新潟市長がウルサン市を訪問、「交流意向書」と「教育交流意向書」に調印
- 12 ウルサン市教育庁職員が来訪。新潟市で「教育交流協定」締結
- 2006. 8 ウルサン市教育庁が派遣する青少年使節団が来訪。ホームステイ交流などを行う
- 9 新潟市において交流協定都市提携
- 2007. 8 「はばたけ世界こどもサミット」にウルサン市教育庁代表団が出席
- 9 新潟市青少年使節団がウルサン市を訪問。学校訪問やホームステイ実施
- 2010. 3 市民が企画した「ウルサン友好の翼」がウルサン市訪問(以後不定期実施)
- 2011. 8 「新潟まつり」に合わせウルサン市代表団とサムルノリ公演団来訪
- 2012. 7 ウルサン市の市民環境団体が来訪。水辺環境に関して市内のNPOと交流
- 10 新潟総おどりメンバーで構成する文化団が「チョヨン文化祭」で公演
- 2013. 8 ウルサン市の親子記者訪問団が来訪。新潟市の親子と交流
- 10 新潟市の親子記者訪問団がウルサン市を訪問
- 2014. 7 新潟市の高校生がウルサン市教育庁主催「国際学生フォーラム」に参加
- 2015. 6 ウルサン市民有志の「新潟を愛する会」が来訪
- 10 市内の文化芸能団体をウルサン市に派遣
「チョヨン文化祭」で公演
- 2016. 8 新潟市で提携10周年記念事業開催。代表団と文化団が来訪
- 9 ウルサン市で提携10周年記念事業開催。代表団と文化団がウルサン市訪問
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にウルサン市代表団・文化団が参加
- 8 新潟市で青年ワークショップ開催。ウルサン市の高校生・大学生が来訪
- 2018. 7 新潟市の青年団をウルサン市に派遣。同年代の学生と交流
- 2019.10 新潟市の専門学校生とウルサン市の大学生がオンラインで交流
- 2021. 9 提携15周年を記念し、新潟市長とウルサン市長がオンラインで会談
両市大学生のオンライン交流会を開催
ウルサン市を紹介する写真パネル展開催
- 2023. 9 ウルサン市の文化団が来訪。「韓日ハンガウィ祭りin新潟」に初出演(以降毎年出演)
- 2024. 9 「ウルサン交流サポーターズプログラム」開催
市内の大学生とウルサン市文化団が交流(翌年度も開催)
- 2025.10 「ウルサン工業祭り」に新潟市代表団、議員団が参加

様々な分野での国際的な取り組み

新潟市は、北東アジアに向かい合う地理的特性に加えて、新幹線をはじめとする鉄道網や、「訪日誘客支援空港」に認定されている新潟空港、国際拠点港湾の新潟港など高度な都市基盤を有しています。優れた拠点性を生かし、新たな国際ビジネスを生み出す環境整備、広域的な交流人口の拡大に努めるほか、食と花、環境・エネルギー、文化・芸術、スポーツなど様々な分野で交流を行っています。

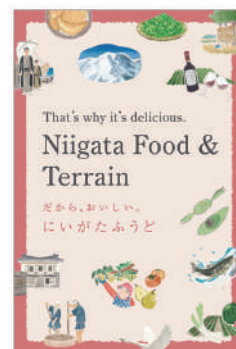
経済分野における取り組み

新潟市の強みである食分野を中心に市内事業者の輸出を促進するため、海外バイヤーとの商談機会を創出するなど海外販路拡大を支援しています。

そのなかで、食の美味しさを人や歴史、風土の観点から整理し、他産地と差別化した新潟ならではの産地ストーリー「にいがたふうど」をブランディングの核として魅力を発信しています。



新潟市公式noteで情報発信中▶



▲新潟の食のおいしさの理由をまとめた「にいがたふうど」

「食と花の世界フォーラムにいがた」

新潟市が誇る「食」と「花」をキーワードに、本市の拠点性と都市ブランドの構築を目指し、「食の国際総合見本市 フードメッセinにいがた」や食に関する優れた取り組みを顕彰する「食の新潟国際賞」の表彰式などを開催しています。



食と花の世界フォーラムにいがたHP▶



▲令和7（2025）年11月
「フードメッセinにいがた2025」

開催17回目となった令和7（2025）年の「フードメッセ」は、国内外から409事業者が出展し、12,200人を超える来場者とのビジネス商談会を3日間開催しました。

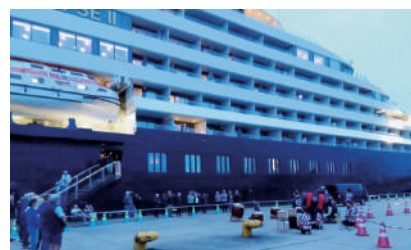


フードメッセinにいがたHP▶

観光分野における取り組み

観光分野では、交流人口の拡大を図るため、新潟空港国際線が就航する東アジア地域をはじめ、訪日意欲の高い国・地域を対象に、旅行会社へのセールス活動を通じてツアー造成を促進しているほか、メディアや観光展等を活用し、海外の消費者に観光情報を発信するなど、知名度の向上に取り組んでいます。

また、海外クルーズ船を積極的に誘致し、寄港の際には岸壁での歓迎セレモニーやまちなかへのシャトルバス運行を行うなど、おもてなし態勢を充実させ、満足度の向上による継続的な寄港につなげています。



▲令和7（2025）年5月 新潟西港
クルーズ船「シーニック・エクリプスⅡ」寄港

国際会議・大会等の誘致

新潟市は、国際会議の開催地、オリンピック選手の事前合宿地として選ばれています。G7、G20、APECなどのハイレベル国際会議の開催は、優れた拠点性や都市機能など様々な条件を満たす都市に限られ、国際都市としての新潟市のポテンシャルを示しています。本市の多彩な魅力や市民のあたたかいおもてなしは、海外の参加者から高い評価を受けました。

年	内容
2010年	APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催
2016年	G7新潟農業大臣会合開催
2018年	平昌2018冬季オリンピック ロシアフィギュアスケートチーム合宿受入
2019年	G20新潟農業大臣会合開催
2021年	東京2020夏季オリンピック フランス空手チーム合宿受入
2023年	G7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議開催

環境分野における取り組み

潟をはじめとする新潟市の豊かな湿地環境やその保全等に関する地域の取り組みが国際的に評価され、令和4(2022)年に、ラムサール条約の湿地都市認証を国内で初めて受けました。

この認証を契機として、湿地の保全や賢明な利用が促進されるよう、さらなる機運醸成につなげるとともに、都市ブランドとして活用することで、シビックプライドの醸成や将来的な交流人口の拡大にもつなげていきます。

また、湿地都市認証を受けた世界各都市の代表が集う「世界湿地都市ネットワーク市長会議」について、令和8(2026)年11月に新潟市で開催される第5回の会議では、都市と自然が調和する本市の特色を「国際湿地都市NIIGATA」として内外に発信していきます。



▲令和7(2025)年11月
第4回世界湿地都市ネットワーク市長会議(ハンガリー・タタ)での開催都市引き継ぎ



▲「国際湿地都市NIIGATA」ロゴマーク

文化を通しての交流

日中韓3か国の相互理解と多様な文化の国際発信力を高める国家的プロジェクト「東アジア文化都市」の平成27(2015)年の日本代表都市に選定されて以降、中国・青島市、韓国・チョンジュ(清州)市と、青少年や芸能団の相互派遣を中心に文化交流を行ってきました。コロナ禍を経て、青少年の受入や文化団体の派遣など、対面による文化交流を再開しています。



▲令和7年(2025)年8月
東アジア文化都市交流事業(新潟市受入)

スポーツを通しての交流

スポーツを通じた国際交流の推進と地域経済の活性化を図るため、国際大会の開催やナショナルチームの事前合宿誘致に取り組んでいます。これまでも、空手のフランス代表チームなどが市内で事前合宿を行っています。また、「国際ユースサッカーin新潟」の開催により、海外代表チームとの試合を通じて国際友好・親善が深められるとともに、参加選手が市内の小中学校を訪問し、児童と交流しています。



▲令和6(2024)年9月
「国際ユースサッカーin新潟」
ペルー代表チームと小学生の交流

青少年交流

令和2(2020)年より、ハルビン市、ウルサン市と市内の小中学校がオンラインによる交流を行っています。また令和6(2024)年には新型コロナウイルスによって中断していた対面交流も再開し、ハルビン市から青少年使節団を受け入れ、令和7(2025)年には新潟市からハルビン市へ派遣を行いました。今後もより多くの子どもたちが海外の子どもたちと交流できるよう、機会を提供していきます。



▲令和7(2025)年10月
新潟市とハルビン市の児童生徒による交流

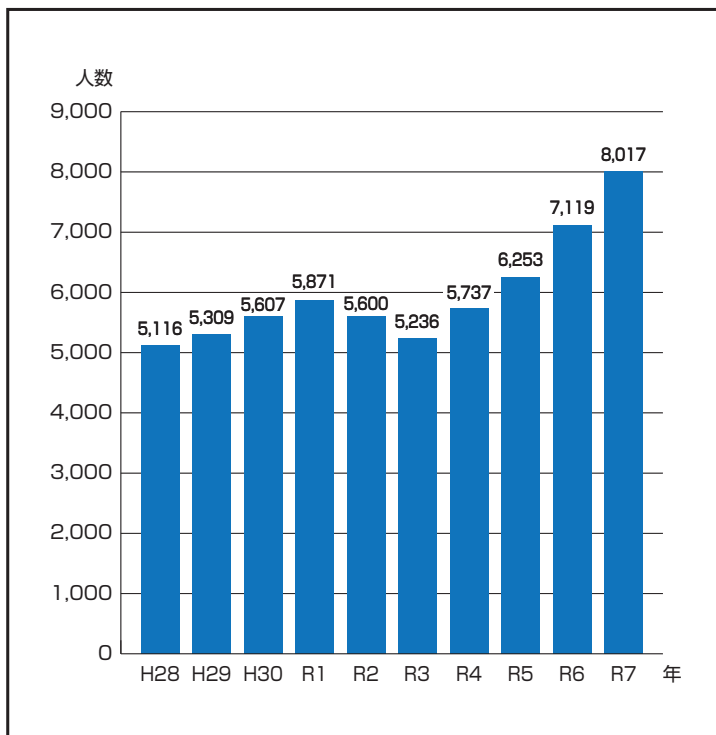
多文化共生のまちづくりをめざして

「多文化共生」とは、「国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

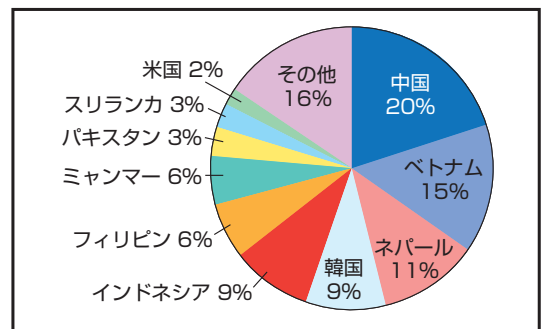
新潟市における外国人数は年々増加しており、令和7（2025）年12月末現在では8,017人が暮らしています。国籍や文化の違いを尊重し合い、一人ひとりが心豊かに暮らすことができるまちを目指し、令和7年3月に新潟市多文化共生基本方針を策定するとともに、同年7月には新潟市多文化共生推進アクションプラン（第1期）を策定しました。新潟市と（公財）新潟市国際交流協会では、日本人と外国人が新潟市という地域社会の中で共に安心して暮らせるよう、様々な事業を通して多文化共生のまちづくりを進めています。

※新潟市が実施する事業は21～22ページを、（公財）新潟市国際交流協会が実施する事業は23～24ページをご参照ください。

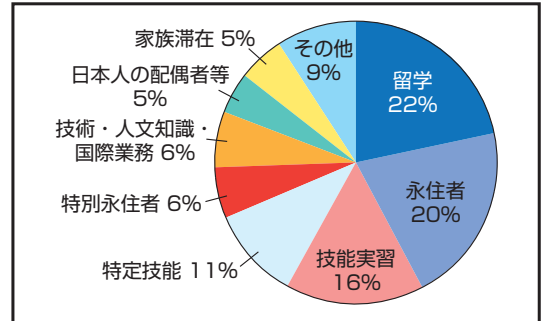
市内在住外国人数の推移（令和7年12月末時点）



国籍別外国人数の割合（令和7年12月末時点）



在留資格別外国人数の割合（令和7年12月末時点）



「災害時における在住外国人支援」の取り組み

外国人は災害に対する知識がないために不安を抱えたり、日本語が十分に理解できないために正しい情報を得られないことがあります。

そのため新潟市では、大規模災害が発生した際に「災害時多言語支援センター」を開設し、多言語での情報提供や相談対応を行うなど、外国人を支援する体制づくりを進めています。

また、新たに転入してきた外国人に対し、防災関連情報を多言語で提供するウェブサイトやアプリを紹介したり、やさしい日本語による防災ガイドブック（デジタル版）を提供するなど、防災に対する意識啓発を行っています。



▲令和8（2026）年2月
災害時多言語情報発信訓練

誰にでもわかりやすく伝えるためにー「やさしい日本語」

「やさしい日本語」は、難しい言葉や表現を言い換える（書き換える）など、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。平仮名の「やさしい」には、「優しい」態度・気持ちで伝える、「易しい」言葉・表現を使うの両方の意味が込められています。

外国人に情報を伝える方法として最も望ましいのは、多言語対応ですが、日本にいるすべての外国人の母語に翻訳・通訳するのは現実的には難しいことです。

平成7（1995）年の阪神・淡路大震災の際、必要な情報が正しく伝わらなかったため、外国人は、死者・負傷者の割合が日本人よりも高かったことがわかりました。そのような経緯から、外国人に対して災害情報を正確かつ迅速に伝えるため「やさしい日本語」が考案されました。その後、行政・生活情報の発信にも活用されるようになり、情報の受け手である外国人からのニーズの高まりも受けて、今では多くの自治体、国際交流協会のほか、企業や団体でも「やさしい日本語」を取り入れています。

新潟市は、市・区役所等の窓口やその他様々な場面において「やさしい日本語」でも情報提供できるように職員向けの研修会を実施するなど、普及促進と意識啓発の取り組みを進めています。



▲令和7（2025）年12月 職員向けやさしい日本語研修

「やさしい日本語」啓発用4コママンガ
原案：国際課 作：児玉 直樹



● やさしい日本語の例 ●

【元の単語・表現】

育児

免除します

妊娠中の人

避難してください

キャンセルする

公共交通機関でご来場ください → 電車やバスに乗って来てください

【やさしい日本語】

→ 子供を育てること

→ お金を払わなくていいです

→ お腹に赤ちゃんがいる人

→ すぐ逃げてください

→ やめる

▲「やさしい日本語」への書き換え、言い換えに正解はありません。上記は一例です。状況に応じて簡単な表現に言い換えたり、言葉を補ったりします。文章では漢字にふりがなをつけるとわかりやすくなります。

○参考資料(出入国在留管理庁、文化庁)



◀在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン



◀話し言葉のポイント

公益財団法人 新潟市国際交流協会

新潟市は、市民の国際理解の増進と友好親善の促進を目的に、財団法人新潟市国際交流協会を平成2(1990)年1月に設立し、事務所を市民の国際交流・協力活動の拠点である新潟国際友好会館内に設置しました。その後、平成17(2005)年に生涯学習センターと新潟国際友好会館との複合施設として「クロスパルにいがた」がオープンすると、同協会も同じ建物内に移転しました。

また、平成24(2012)年2月1日には公益財団法人に移行し、令和4(2022)年4月1日付で総務大臣から地域国際化協会としての認定を受けるとともに、同日付で地域国際化協会連絡協議会にも加盟しました。

新潟市国際交流協会は、市民の国際交流・協力活動を促進し、多文化共生のまちづくりに貢献するため、市と役割分担しながら各種事業を行っています。

- 住所 新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地 クロスパルにいがた内
- TEL 025-225-2727 ○FAX 025-225-2733
- HP <https://www.nief.or.jp> ○e-mail kyokai@nief.or.jp

● 外国籍市民等・留学生への支援 ●

・日本語講座

日本語を母語としない方が日本語を習得するための講座です。レベル別のクラスを設けてきめ細かな授業を行っています。

・日本語学習支援講座

日本語を教える方が知識やスキルなどを学ぶための講座を開催しています。

・地域日本語教室連携

地域のボランティア日本語教室の活動や、指導者・学習者間のネットワークづくりを支援しています。

・外国につながりをもつ子どもたちのための学習支援(にこぼるクラブ)

学習支援教室「にこぼるクラブ」を開設し、主に小中学生の学習のサポートや居場所づくりをしています。

・外国語による相談窓口

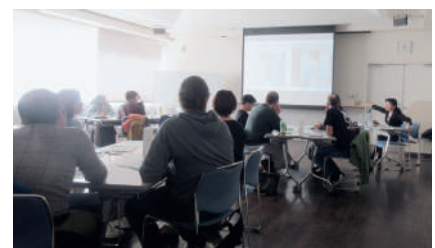
外国人が日常の悩みや困りごとなどを相談できる窓口を開設しています。また関係機関・団体と連携し、法律や医療の専門家による相談会も開催しています。

・医療通訳活動への支援

市民団体が実施する通訳登録者研修、医療通訳者の派遣活動を支援しています。

・災害時における在住外国人支援

市内で大規模な災害が発生した際に、多言語による情報提供や相談対応等を行います。



▲令和7(2025)年11月
日本語学習支援講座



▲外国につながりをもつ子どもたちのための学習支援(にこぼるクラブ)



▲令和7(2025)年4月
外国を知る講座(キルギス文化理解講座)

● 国際理解・異文化理解の促進 ●

・外国を知る講座

国際交流員(25ページを参照)や外部講師による、外国の文化や社会を紹介する講座を開催しています。

・子どもたちが世界に親しむ日

国際交流員による外国語での絵本の読み聞かせや、遊び・工作等を通じて外国語に触れられるイベントを開催しています。



▲子どもたちが世界に親しむ日

・日本文化体験

外国人が日本の文化や新潟まつりの民謡流しを体験する機会を提供しています。

・留学生交流事業

留学生と市民がホームビジット体験等を通じてお互いの文化を学び、交流する機会を提供しています。

・高校生留学支援

連携団体のプログラムで海外留学する高校生若干名に、参加費の一部を奨学金として支給しています。



▲令和7(2025)年8月
日本文化体験(新潟まつり民謡流し)

● 国際交流・協力活動の促進 ●

・市民国際活動促進補助

市民団体が実施する国際交流・協力、多文化共生関連事業に対して、経費の一部を補助し、活動を支援しています。

・にいがた国際ネットワーク会議

市内の国際交流・協力、多文化共生関係団体が情報交換やネットワークづくりを行うための会議を開催しています。

・国際交流・協力団体発表展示会

各団体が日頃の活動内容や成果を紹介する発表展示会を開催しています。

● 広報・啓発・情報提供 ●

・広報紙・情報紙

広報紙(日本語)と外国語情報紙(英語・中国語・韓国語・ロシア語・ベトナム語)を発行し、希望者にはメールマガジンで配信しています。

・ホームページ、SNS

当協会の事業の紹介をはじめ、各種情報を発信しています。



▲協会HP(左)とフェイスブック(右)

新潟国際友好会館

新潟国際友好会館は、国籍に関わらずすべての市民が気軽に来館し利用できる国際交流・協力、多文化共生活動の拠点施設で、次のような部屋や設備があります。お気軽にご利用ください。

- ・講座や会議に利用できる講座室
- ・ミーティングや作業を行う共同利用室
- ・さまざまな情報を交換するインフォメーション・ボード

※生涯学習センターとの共用施設として、交流ホール、調理実習室があります。



▲クロスパルにいがた(生涯学習センター・新潟国際友好会館)



○住所 新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地 クロスパルにいがた内

国際交流員

国際交流員 (CIR : Coordinator for International Relations) は、主に地方公共団体の国際交流担当部局等において国際交流活動に従事するため、「JETプログラム」*により招致される外国青年です。新潟市には、姉妹・友好都市、交流協定都市のある、アメリカ、中国、韓国、フランス出身の4名の交流員 (令和8 (2026) 年3月時点) がおり、新潟市観光・国際交流部 (国際課) 及び新潟市国際交流協会で勤務しています。本市の国際交流や多文化共生のまちづくりの推進、市民および職員の異文化理解促進 (啓発) のための業務を行っています。

※ JETプログラム :

「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme) の略称で、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下、地方自治体等が主体となって実施している国際的な人的交流事業です。



◀JETプログラム
について
(一般財団法人
自治体国際化協会)

● 国際交流員の主な活動内容 ●

- ・ 姉妹・友好都市、交流協定都市などとの交流推進業務
- ・ 新潟市公文書、観光パンフレット等の外国語翻訳
- ・ 表敬訪問、国際イベント等における通訳
- ・ 市内小中学校等での異文化理解講座
- ・ 国際理解、国際交流イベントの企画・運営
- ・ 外国語による情報発信



▲令和7 (2025) 年10月
韓国・ウルサン市での議員視察通訳



▲令和7 (2025) 年11月
市内小学校での文化理解講座



▲令和7 (2025) 年11月
アメリカ・ガルベストーン市での新潟市PR
(姉妹都市提携60周年記念事業)



▲令和7 (2025) 年12月
中国文化理解イベント (小籠包づくり体験)

● 国際交流員からのメッセージ ●

こんにちは！私たちは、新潟市の国際交流の促進や、外国人にも暮らしやすいまちづくりのため、日々様々な活動を行っています。活動を通し、市民の皆さんに母国の文化や国際交流に興味を持っていただければ嬉しいです。講座や学校訪問で皆さんとお会いできることを楽しみにしています！



▲新潟市の交流員紹介
(新潟市HP)

市民が主役の国際交流

新潟市では、様々な国や地域にルーツを持つ人々が暮らし、学び、働いています。学校や職場、地域活動の中では、多様な文化や価値観が共存しています。

また、経済や文化など、あらゆる分野で国境を越えた相互依存関係が深まっており、国際的なつながりは、私たちの日常の一部となっています。環境問題をはじめとする地球規模の課題も山積しており、地域社会においても、国際的な視点を持って行動することの意義が高まっています。

このような環境の中で、市民が主役となり、国際交流や国際協力、多文化共生に取り組む民間団体が活発に活動しています。こうした草の根の取り組みは、人と人との相互理解を深めるとともに、多文化共生のまちづくりを支える大切な基盤となっています。

● 国際交流 ●

市内では、姉妹・友好都市等との交流を行う団体をはじめ、多くの国際交流団体が活発に活動しています。工夫を凝らした交流の積み重ねにより、友情や信頼関係が生まれ、そのつながりは次の世代へと引き継がれています。また、市民が中心となって、国籍の異なる人々が互いの文化に触れ合う様々なイベントが開催され、相互理解を深める場となっています。

● 国際協力 ●

新潟市を拠点に、国境を越えた援助や協力活動を展開する民間団体もあります。学校や病院などの生活環境の整備をはじめ、子どもたちへの奨学金の提供、教育・就業支援、フェアトレードの推進など、協力の形は多岐にわたります。こうした活動には、多くの市民がボランティアや寄附などを通じて参加しています。これらの取り組みは、相手地域の自立に貢献するとともに、市民一人ひとりが地球規模の課題を自分事として考えるきっかけとなっています。

● 在住外国人への支援 ●

新潟市で暮らす外国人を支援する活動も行われています。生活に必要な日本語の習得を支援するため、ボランティアによる日本語教室が市内各地で開設されているほか、学習者や支援者同士の交流やネットワークづくりも進められています。また、日常の悩みや困りごとの相談に外国語で対応する団体や、医療機関を受診する際の通訳支援に取り組む団体もあります。これらの活動は、多様なルーツを持つ人々が地域社会の一員として安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。



▲令和7(2025)年4月
ガルベストンの代表
団との交流(姉妹都市
提携60周年記念事業)

▶令和7(2025)年8月
ウルサン市の友好市民
の会との交流



▲令和5(2023)年10月
国際交流・協力団体発表展示会



▲令和7(2025)年11月
日本語教室交流会

市民憲章

わたしたちをめざす新潟

信濃、阿賀野のゆたかな川の流が海にそそぎいるところ、
ここがわたしたちのまち新潟。日本海に沈む夕日が美しい。

海のかなたの国ぐににむけて開かれたこの港まちは、流れの
ほとりの木のように、いよいよ育ち、栄えている。人びとは、昔から、
力を合わせ、ねばり強く、この自由な開かれたまちを築いてきた。

さあ、わたしたちも、いま、たしかな一歩を踏み出そう。

わたしたちが望む新潟をめざして！

ゆたかな海の幸と田畑のみり。
新潟は、自然がいかされ、まもられるまち。

働くよろこび、憩いの静けさ。
新潟は、活気にあふれ、落ちつきのあるまち。

すこやかな生活は、わたしたちすべての願い。
新潟は、みんなで生きるために、助け合うまち。

はぐくむ心が、いのちを育てる。
新潟は、一人ひとりが大切にされ、いかされるまち。

海のむこうは、友となる国ぐに。
わたしたちは、世界の平和のかけ橋となる。

(平成元(1989)年4月1日制定)

発行年月：令和8(2026)年3月

本冊子の掲載情報は令和8(2026)年3月時点のものであり、
世界情勢の影響等により変更となる場合があります。

ご意見・お問い合わせはこちらへ

新潟市観光・国際交流部 国際課
TEL:025-226-1673 FAX:025-225-3255
E-Mail:kokusai@city.niigata.lg.jp



再生紙処理をしやすい
ため、植物性大豆インク
を使用しております。